

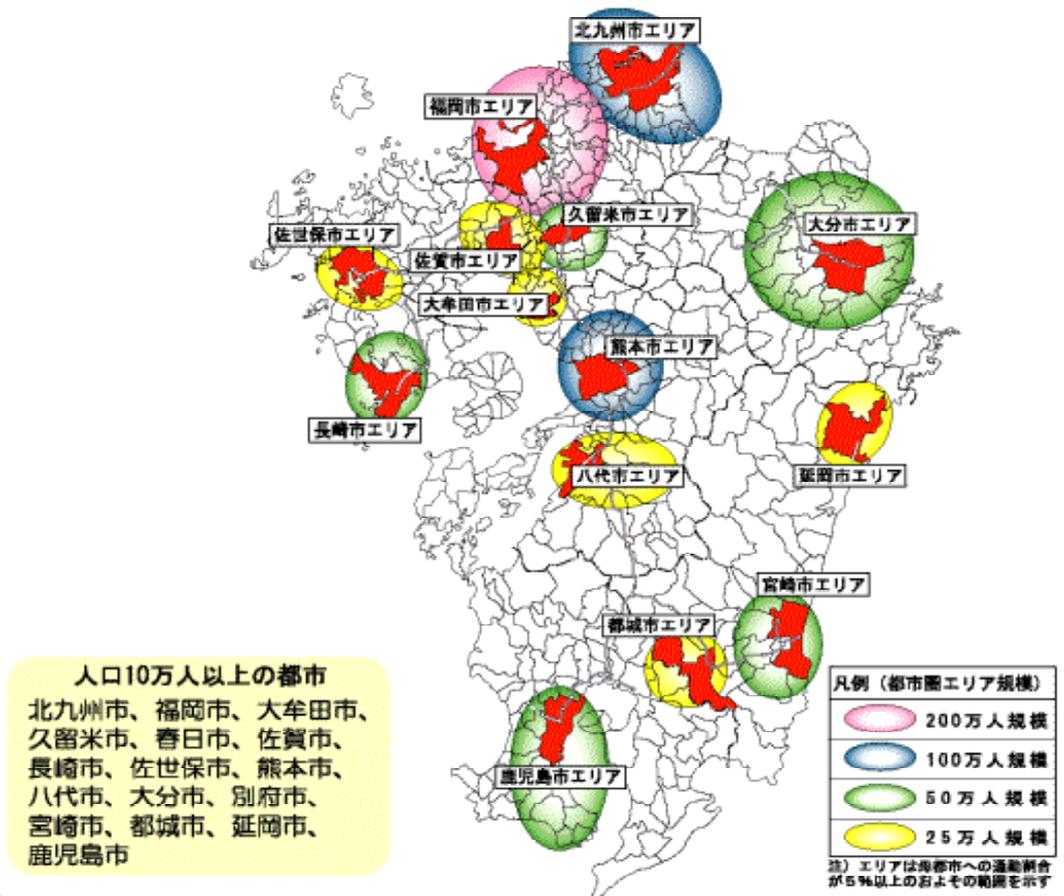
## (2) 分散する都市と多自然地域の自立・連携が課題

ある程度の都市が適度に分散する地域構造、豊かな自然、地域の歴史・文化などのポテンシャルを活用して、都市と自然の機能を享受できる個性ある地域づくりが求められる。

### 都市・自然交流圏の形成

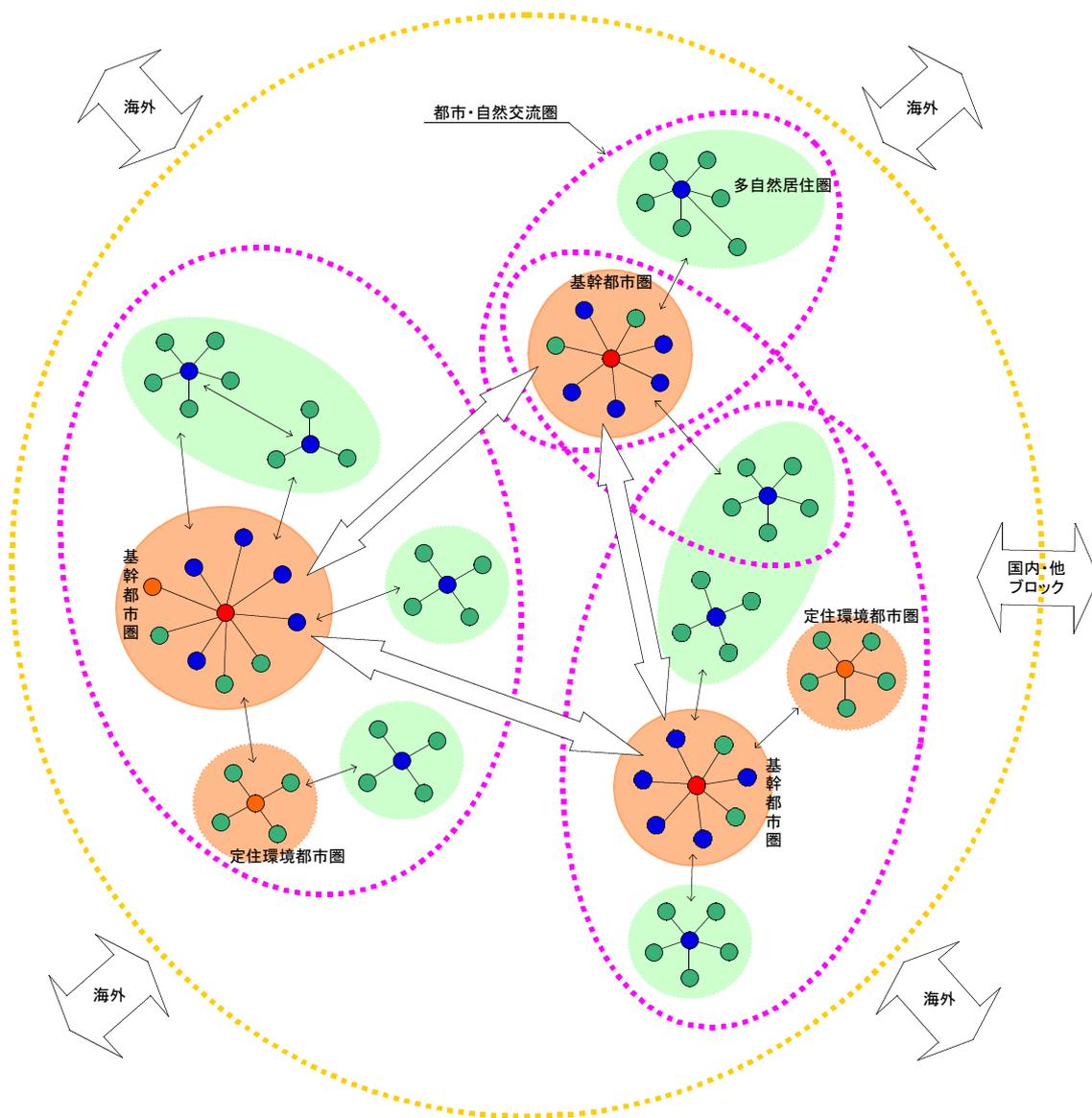
豊かな自然と歴史を持つ九州は、中小都市を核とし、中山間地域を含む農山漁村等が一体となり基礎的な都市的サービスとゆとりある居住環境、豊かな自然をあわせて享受できる「多自然居住地域」の形成による個性的で魅力的な地域づくりをすすめることが可能である。しかし、「多自然居住地域」の多くは地理的制約が多く、過疎化が進行し、特に高次の都市的サービスが十分でないことから、圏域のみで自立発展することが困難という課題を抱えている。

一方、九州は県庁所在地を中心に比較的規模が大きく高次の都市的サービスを有する「都市圏」が概ね 100km ~ 200km の間隔で適度に分散している。したがって、道路や航路の整備による交通環境の改善により隣接する「都市圏」と「多自然居住地域」とのアクセス向上を図ることで、高次の都市的サービスと豊かな自然の両方を享受できる「都市・自然交流圏」を効率的に九州全域に形成することが可能である。



資料) 国土交通省九州地方整備局

図 主要都市の分布状況



凡例

- 地方中枢・中核都市
- 地方中心都市
- 中小都市
- 農山漁村
- 基幹都市圏、定住環境都市圏
- 多自然居住圏
- 都市・自然交流圏
- 九州広域国際交流圏
- ↔ 基幹都市圏間の連携・交流
- 地域間の連携・交流
- 生活圏間の連携・交流
- ↔ 海外・国内ブロックとの連携・交流

基礎的な圏域	通勤や通学など日常生活圏域（生活の中心から概ね1時間圏域）
基幹都市圏	中枢・中核都市を中心とした、高次医療、高次教育等の高次都市サービスを受受できる圏域
定住環境都市圏	地方中心都市を中心とした都市サービスを受受できる圏域
多自然居住圏	中小都市及び周辺の農山漁村等に囲まれた、豊かな自然に恵まれた圏域
都市・自然交流圏	基幹都市圏、定住環境都市圏、多自然居住圏を含み、連携を促進し相互にメリットを受受しあう圏域
九州広域国際交流圏	中枢・中核都市等を核として、地域間連携によって九州全体で自立的で多様な国際交流活動を行う圏域

図 都市・自然交流圏イメージ図

多自然居住地域に不足する都市的サービス

九州には、高度医療を提供する第三次救急医療施設等の高次都市サービス施設まで60分以上を要する市町村が136市町村分布しており、そこに九州全人口の約16%が居住している。また、大学や博物館等の文化的都市サービスについても都市圏に集中している。「多自然居住地域」においても高次の都市的サービスを楽しむ交通体系の構築や地域の持つ魅力の情報発信に取り組む事により、「多自然居住地域」の魅力をもつ必要がある。

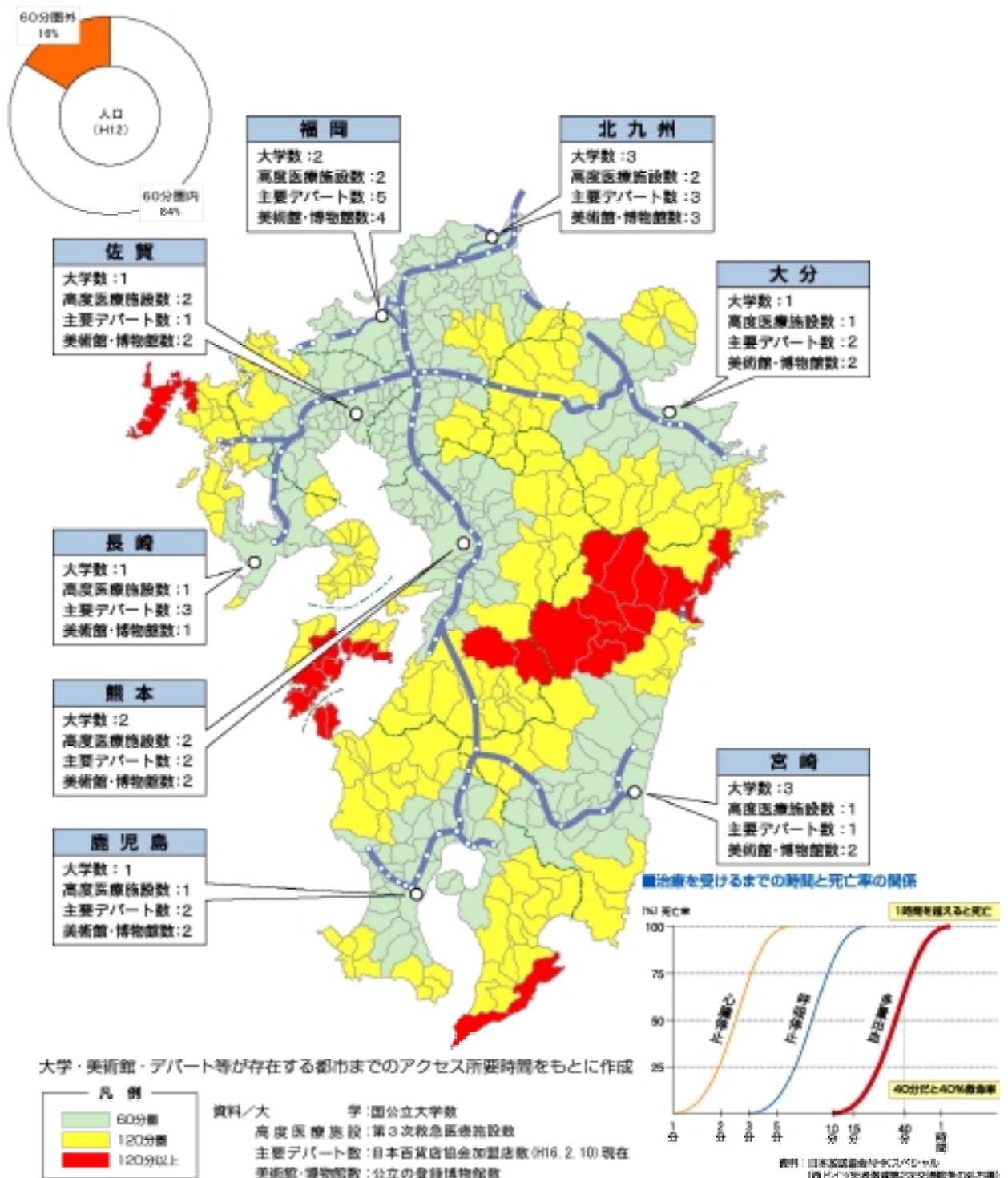
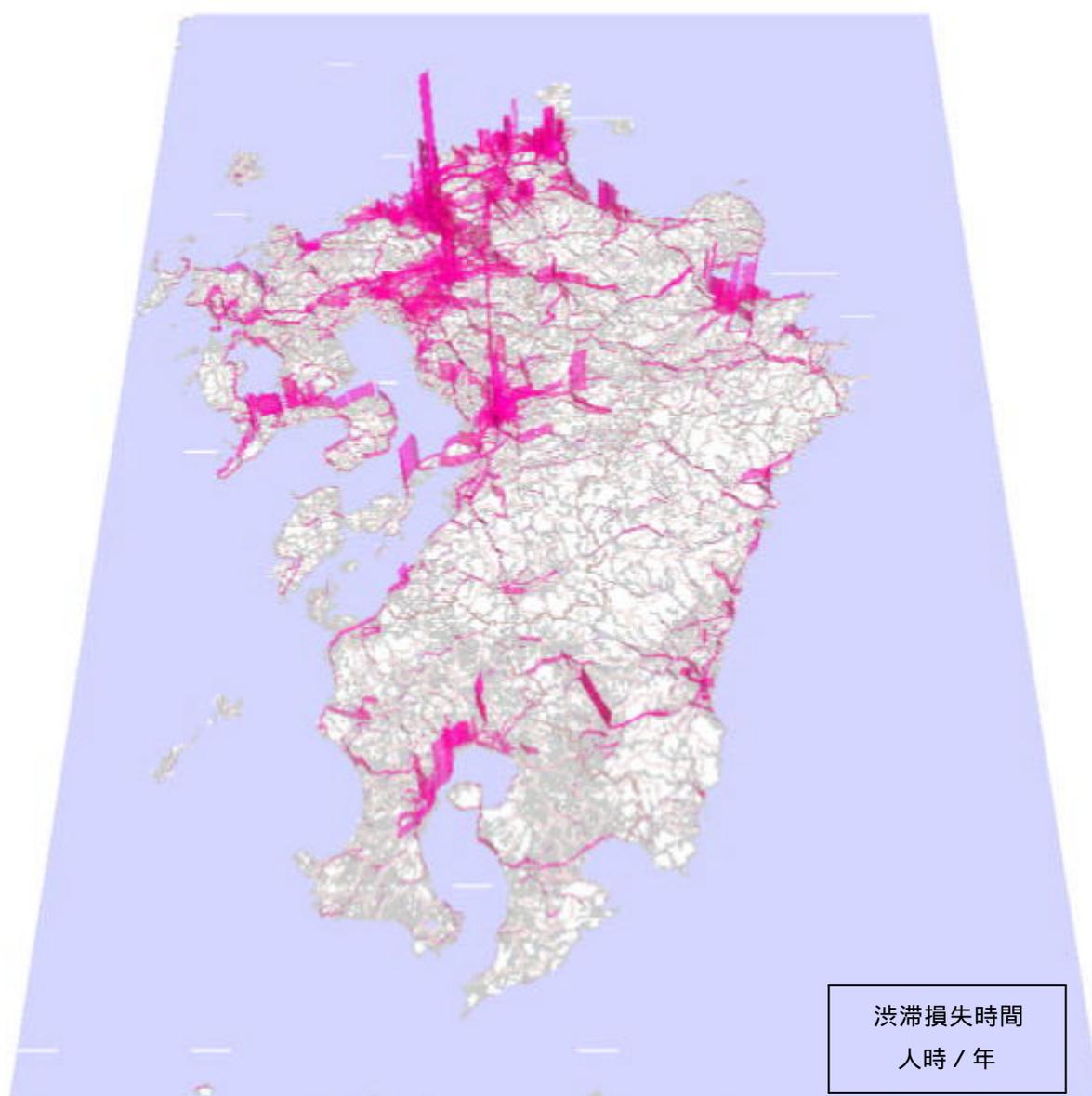


図 主要都市までの60分圏

## 慢性的な渋滞や中心市街地の沈滞化による都市の魅力の低下

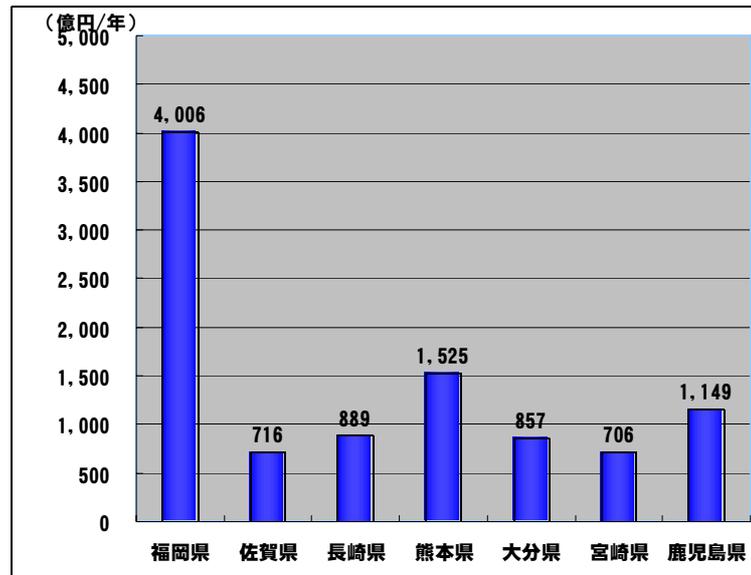
都市部において発生している交通渋滞は、福岡県の約 4,000 億円をはじめとして九州全体では年間約 9,848 億円に相当する時間損失を発生させ、都市部の機能を低下させる大きな要因の一つとなっているため、交通渋滞の解消・緩和に向けた取り組みが必要である。

また、誰もが安心して快適に移動できる歩行空間の整備による都市部の魅力向上に向けた取り組みが必要である。



資料) 国土交通省九州地方整備局

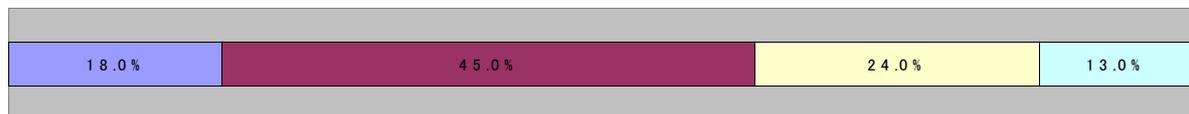
図 渋滞損失時間 3Dマップ(H14)



資料) 国土交通省九州地方整備局

図 県別渋滞損失額(H14)

市街地の拡大や商業構造の変化、またそれに伴うファミリー世帯の郊外転出等によりまちなかの活力が著しく低下している。まちなかの活力低下は都市の魅力を下げる大きな要因の一つとなっているため、将来目指すべき都市像を明らかにしつつ、まちなかの居住と交流の促進に向けて、魅力と賑わいのあるまちづくりに向けて取り組む必要がある。



※ 最寄品中心で地元主婦が日用品などを、徒歩または自転車などにより日常性の買い物をする商店街を対象とする

■ 空き店舗はない ■ 10%未満 □ 10～20%未満 □ 20%以上

資料) 国土交通省九州地方整備局

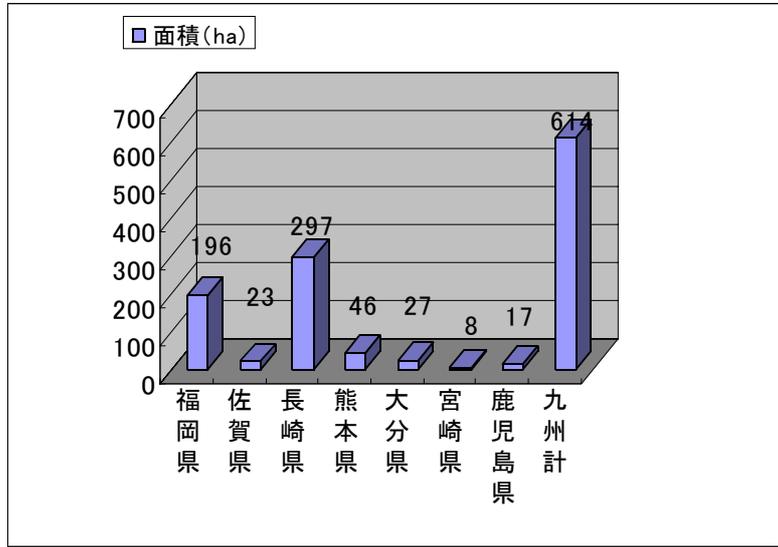
図 中心市街地の空き店舗率

		中心商業地人口 (人)	増減率
川内市	平成2年	3,451	-18.3%
	平成9年	2,821	
小林市	平成2年	2,072	-17.1%
	平成11年	1,717	

資料) 国土交通省九州地方整備局

図 中心市街地の人口減少の例

地震時において大規模な火災の発生する可能性がある密集市街地や、中心市街地を貫流する河川の治水安全度が低いこと等災害に対する脆弱性は都市の魅力を下させる大きな要因の一つとなっているため、都市の防災性の向上に向けた取組みが必要である。



資料) 国土交通省九州地方整備局

図 重点的に解消すべき密集市街地の状況



資料) 国土交通省九州地方整備局

写真 密集市街地の状況 (大分市)



資料) 福岡県

写真 御笠川（博多区）出水状況（平成15年7月）



資料) 国土交通省九州地方整備局

写真 御笠川出水による福岡市営地下鉄 博多駅の浸水状況（平成15年7月）



資料) 国土交通省九州地方整備局

写真 熊本市街地部を貫流する白川